

1. みんなのおうち（地域総合福祉拠点）とは何か

- ・ コミュニティの崩壊と不安の増大
- ・ SDG's(持続可能な開発目標)が出された背景
- ・ 全組合員経営から社会連帯経営への発展—労働者協同組合運動の向うべき方向性
- ・ 空き家、有休施設、休耕地の急速な広がり
- ・ みんなのおうちづくり運動とは、市民が社会連帯と協同労働を通じて、命の基礎となる地域と労働を再生していくための拠点(コモンズ)づくりである。

2. みんなのおうちづくりと社会連帯

- ・ 日本社会連帯機構が生まれた背景
- ・ コミュニティ(くらし)の再生と、労働の再生を一体のものとして捉える。

3. みんなのおうちづくりのイメージを広げよう（実践例）

- ・ こまじいの家
- ・ 千葉県佐倉市中志津
- ・ 旭川とくさんの家

4. みんなのおうちのつくり方

- ・ 山登りも色々な登山ルートがあるように、みんなのおうちのつくり方も地域性や人によって様々あっていい。
- ・ しかしベースになることは
 - ① 住民の願いや地域のニーズに沿ったみんなのおうちであること。従って、地域懇談会や食事会などみんなの想いが出せる場をつくる
 - ② 地域のニーズを知るための学習や事前調査、ヒアリング
 - ③ 中心となる人との出会い
 - ④ みんなのおうちは支援する側される側という場ではなく、ともに創る場。従って、みんなのおうちを支える資金・知恵・労力などもみんなが出し合うことが基本—一人ひとりに「居場所」と「役割」を
 - ⑤ みんなのおうちの活動や労働は、協同労働で担おう。そのための説明会や学習会を開催する。
- ・ 拠点探しをみんなでする。会食会、防災拠点、講座などが出来るスペースと、出来れば畑が併設あるいは近くにあるとGOOD
- ・ みんなのおうち基金(別紙)の活用—一般1口1万円。会員は毎月500円(年間 6,000 円)に対して、4,000 円の助成)